自分らしく生きる

多くの高齢者は、人の世話にならず自立して生活することを望んでいますが自分の思うようにならないのが常です。在宅・施設という枠を超えて、人はどのように人生の最終章を生きているのかをシリーズでご紹介いたします。

生きている限り現役続行

世田谷区　印南　敏さん（94歳）
要介護1　腰椎圧迫骨折

印南さんは食物繊維の研究では著書も多く、日本有数の権威である

〝寝たきりの命みつめてあるがまま〟

2017年末、印南さんは圧迫骨折を患い入院。手術のあとしばらくの間寝たきりの状態にあった。この句はその時の心境を詠んだものである。

NHKの川柳講座の句集に毎年応募

根気強いリハビリの甲斐あり、現在は杖をつきながらも毎日奥様と買い物に出かけるまでにお元気になった。

元大学教授の印南さんは、引退後も教え子の原稿の査読をしたり、時おり学会に出かけるほか、囲碁と川柳を趣味としている。川柳はNHKの通信講座をこの10年受講。テレビや新聞から社会情勢などの情報を切り抜きし、川柳のネタを探す日々のようだ。しかし長い間に貯まった切り抜き資料や旧原稿は、奥様の康子さんにとっては時にそれは〝GOMI〟のような扱いらしい。

〝九十路日々を作句と断舎離に〟

印南さんが信条としているのは「生きている限り現役続行！」。年のせいで諦めたりせず出来ることを淡々と行う、このことが90歳を超えてしばらく寝たきりになりながらも歩けるまでになった成果であり、この心の在り様が人生を大きく変える分岐点なのではないだろうか。「今までいろいろな困難もありましたが、結果的に乗り越えてここまで来ました」と康子さん。

これからもご夫婦二人三脚で〝生きる姿〟を周りに見せてくれる事と思う。

〝九十路おまけで生きたわけじゃない〟

印南さんご夫妻